

新設239棟、既存物件139棟

中高層建築物の09年度直結給水導入

工事完成ベース 切り替え46%増

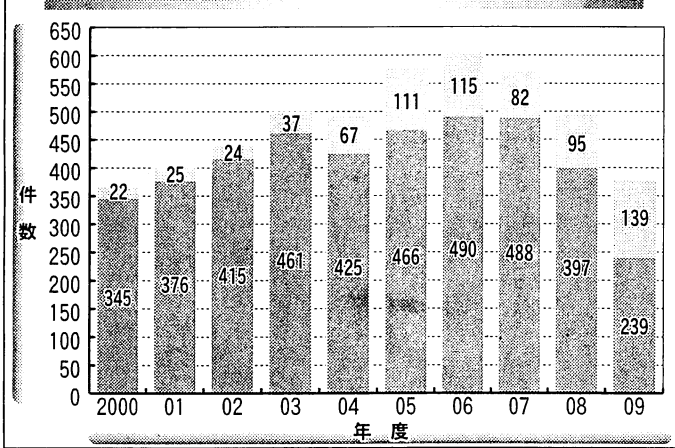
市水道局は、中高層建築物での2009年度直結直圧・加圧方式導入実績をまとめた。工事完成ベースで、既存物件の切り替えが139棟と08年度比46・3%増と進んだのに対し、新設は39・8%減の239棟にとどまった。合わせて378棟は3年連続の減少だ。

新築物件での直結給水導入は、直圧方式が33・

7%減の175棟、加圧方式が51・9%減の64棟と、リーマンショックの影響などを背景にしたマンション建設の低迷が反映した形となった。

一方、既存物件の切り替えは、直圧方式が41・9%増の88棟、加圧方式が54・5%増の51棟と拡大。市では「マンションの水道点検や改修相談などの際に行っているPRが功を奏しているのではないか」とみている。

直結給水方式導入棟数の推移



中高層建築物で受水槽を経由しない直結給水が認められたのは1992年度から。当初は配水供給の水圧を利用した直圧方式だけで、5階建てま

でが限界だった。

しかし、97年度以降はブースターポンプ（加圧装置）の設置で10階程度までが可能となり、さらに、07年2月からは、75階直結加圧型ポンプユニットを用いることで、目安として15階建て200戸程度の大規模なマンションなどでも対応できるようになった。

04年度からの減免措置などにより、既存の中高層建築物の切り替えが一気に進み、07年度には市内の直結給水率は98・5%に達し、当時の全国13大都市平均73・6%を大きく上回った。

直結給水は、受水槽が不要のため、スペースの

有効利用や建設コストの削減、メンテナンス費用の節約につながることも、衛生上の問題が指摘されている受水槽方式より、安全で新鮮な水を供給することなどが期待されている。